第 583 回：論文やレポートの書き方について (1) (DM)

みなさんこんにちは。LA 毎週月曜 12:00~15:00 担当、博士課程 2 年の DM です。

今回から数回に分けて、この LA 通信にて、論文やレポートの書き方についてまとめていきたいと思います。学部生がレポート課題や卒業論文を作成することを念頭に置いています。みなさま、しばらくの間、どうぞお付き合いいただけますと幸いです。

ここで言う論文とは、「問いに対して明確な答えを主張し、その主張を論証するための文章」のことです（戸田山 2022: 13）。この問いと答えに学術的な価値があると認められると、立派な学術論文になります。

これに対して、レポートとは、「調査・研究の結果わかった事実を客観的に、筋道を立ててまとめて書く」ものであります（木下 1994: 010）。論文を書く準備として作成される場合が多いです。課題提出の条件として要求されない場合には、自分なりの問いや答えは必須ではありません。

みなさま大学生がレポート課題や卒業論文を書かされるのは、これらの課題をこなすことで、「論理的に文章を書くスキル」（戸田山 2022: 13）を習得するのを要求されているからであります。社会的な場であれば、おそらくどこであっても適

切な根拠を使って論理的に説得力のある意見を伝える技術が要求されます。ですから、その技術を身につけてもらおう、というわけです。研究者を目指すかどうかというのは、その先の話であります。

論文やレポートの作成方法は非常に簡潔な形で定式化されていて、その方法に従って作業を進めれば、論文やレポートとして体裁の整った文章を書くことができますようになっていきます。論理的に文章を書く訓練としてレポート課題や卒業論文が重宝されているのは、そのためであります。

論文やレポートについてはたくさんの方が書かれています。ですが、書いていく上で守るべき基本的な手順は共通しています。ですから、一番いいのは、読んで納得のいく本から方法を学んでいくことです。

私の場合、それは記号学者ウンベルト・エーコの『論文作法』でした。1977年に発表された古い本です。ですが、ウンベルト・エーコとは、単なる著名な記号学者ではなく、この本を出した3年後に『薔薇の名前』(1980)という小説で世界的なベストセラー作家となった記号学者です。『論文作法』は小説ではありませんが、「論文はこうして書く」という手順がまるで物語のように明快に語られていて、読んでいて説得力があります。

第 583 回：論文やレポートの書き方について (1) (DM)

私はこの本から論文の書き方の基礎を学びました。ですから、私が紹介する論文・レポートの作成法は、基本的には『論文作法』の図式に則ったものとなります。その図式とは、1) 問題設定をして、2) 資料を集めて、3) 計画を立てて作業を進め、4) その結果をまとめて原稿を作成する、というものであります。

次回からは、この図式を詳しく説明していきます。もちろん、ただ説明するだけでは何の説得力もありません。実践を交えながら説明していきたいと思えます。

今回の LA 通信はここまでです。次回は、ウンベルト・エーコと『論文作法』について、簡単に概観していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

参考文献

ウンベルト、エコ (1991)『論文作法』(谷口勇訳) 而立書房
木下、是雄 (1994)『論文の組み立て方』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房
戸田山、和久 (2022)『論文の教室：レポートから卒論まで』(NHK ブックス;1272) NHK 出版